



©Yuki Asada

スラム女性の布製品で地域を元気に

ケニアの首都ナイロビ市街地から車で20分、閑静な住宅街の外れにあるキバガレスラム。狭い空間にプレハブ小屋がひしめき合い、1万5,000もの人が身を寄せ合って暮らしている。

電気や水道、トイレもない家がほとんど。雨が降れば道はぬかるみ、周りにはごみだらけ。仕事も日雇いがほとんどで、安定した収入を得られる人は少ない。人々はそんな現状にも、どこか“諦め”を抱いていた。

そこで声を上げたのが、青年海外協力隊OBの市橋隆雄牧師。「彼らが貧困の中から希望を持ち、未来に向かって意欲的に生きられるように」。そんな思いで2003年、地元の教会と「コイ

ノニアエデュケーションセンター」を設立。貧しい子どもたちを対象に教育の機会を提供してきた。

また、スラムの女性たちの生計向上のため、04年からは母親に対しても洋裁、編み物の技術を指導。“何か”に挑戦する機会を与えられた女性たちは、慣れない作業にも根気強く取り組んでいるという。

ケニアの伝統的な布カンガやキコイを使用した布製品は、ケニア在住の日本人にも人気。「技術を得ることで自信が生まれ、家族にも良い影響が広がっています」とボランティアの佐藤幸子さんは話す。

女性たちの元気が素となり、キバガ

レスラムでは今、地域おこしの風が吹き始めている。



作業場はいつも生き生きとした女性の笑顔に包まれている

★エプロン、エコバッグ、鍋つかみを各2人、ティータオルを3人にプレゼント！詳細は38ページへ→

